

# 大学をどう生かすか

大 沢 勝

おおさわ・まさる  
日本福祉大学総長

この数年、大学環境は急激に変化した。M・トロウ博士の指摘する大学ユニバーサル化（大学進学率五〇%以上）は、国立大学独立行政法人化の動向もふくめて、すべての大学における教育・研究と管理・運営のあり方など広い分野で、強烈な変革のインパクトとなっている。また、十八歳人口の激減は、私立大学の経営基盤をも揺るがす。すでに二割に定員割れが起こり、文部省は、倒産私立大学の発生に対する対応策の検討に入ったと伝えられている。激増しつつある公立大学・学部も、地方自治体の財政困窮に直面して、大きな矛盾を抱えたまま、大変革の課題に直面している。これらのすべてが相互に関連して、いま、国公立の枠を越えて、すべての大学が、その存立をかけた試練に直面している。私はこの十数年、想定される幾多の困難が、日本の大学変革にとって絶好のチャンスであり、積極的なチャレンジを通して、新たな大学創造へ向けて努力することと呼びかけてきた。十三年前、学長に就任した折には、「この

改革にフロックやトリックは通用しない。大学の本質的機能に十分に留意しつつ、時代と社会の変化に鋭く、かつ、迅速に対応すること」を、本学教職員へのメッセージとした。大学は、私たちの生存の場ではあるが、専有物ではない。設置形態を問わず、大学は、地域とともに、文化を共有し、創造する公的な機関である。この基本認識の上で、私の大学づくりの実践過程で考えた「大学をどう生かすか」の基本視点について述べることにしたい。

第一は、「開かれた大学」の原点はなにか。E・アシユビエーは『科学革命と大学』のなかで、社会的制度としての大学が、約八百年にもわたって持続した最も主要な要因は、その「同一パターン性」（本質的機能）にあったと喝破している。大学はもともと開かれた機関であったが、わが国の百五十年におよぶ近代史の中では、制度と内容の両面で硬化化した閉鎖回路が形成された。戦後大学の理念は、大学の「孤立主義」（教養と専

門の二元化、学問の専有化、市民生活からの遊離化＝閉じた回路の形成)を否定し、開かれた大学の建設を前提とした。しかし、制度と運用の実態はこの理念から離れていた。いま大学開放が強く叫ばれているのは、大学がその本質的機能から遠ざかってきたことを示している。この課題克服こそ大学の生きる道と確信している。

第二は、「開かれた大学」への社会的・文化的インパクトをどう考えるか。①「大学ユニバーサル化の時代を迎えたこと。」②科学・技術研究の細分化とともに、総合化への動向が強まったこと。③環境・長寿・生命諸科学のような融合的・複合的・学際的な研究領域が飛躍的に拡大したこと。④宇宙や地球研究など、超大型共同研究プロジェクトが増大したこと。⑤学術・文化の国際化が急進展し、国内外における各大学相互間の単位互換・累積加算制度等を可能にするような地球規模での「汎大学カリキュラム」を必要とする時代にあること。⑥先端・情報科学技術と人間の安全・幸福との調和が強求められる時代を迎えており、人文・社会・自然諸科学の調和発展の必要性が増大していること。⑦国民生活・文化の大きな変化にもない、大学は地域社会と文化との共生・共創の時代にあること。⑧「生涯学習」の必要性が飛躍的に増大したこと。⑨文教政策などの動向とともに、大学の自律的な「自己革新」の実現が強く求められていることなどである。

第三は、「開かれた大学」づくりで留意すべき点はなにか。

一つは、大学に残存する閉鎖性を自ら克服する課題である。大学の内部に、研究と教育サービスのための行き届いた「開放回路」を構築することである。研究水準、教育水準(カリキュラム、教授内容・方法等)、文化サービス水準、大学・学部の管理運営水準などの向上、単位累積加算制度をふくむ新たな大学生涯学習体系づくりなど、私たち自身の手で、丹念に創りあげることである。いま一つは、大学と地域社会との新しい関係創出を図る課題である。大学開放が、地域社会に対してInclusion(溶け込み)なのか、Intrusion(押しつけ)なのか、また、University Extension(大学拡張)なのか、Common-Culture Creation(共有文化の創造)なのかが問われている。また学術研究の大きな変化は、もはや一大学の総合化・巨大化などでは対応できない。一大学完結主義の時代は終わった。したがって、大学間および大学・地域・産業・行政間の相互の研究・教育・文化交流のための積極的な「学」主導による多彩なネットワークを構築するための工夫と努力が必要である。また、特に、私立大学では、このような大学機能が維持できるためにも、強い自立した財政運営システムを構築することが不可欠である。寄付活動の積極的展開、研究・教育サービスや委託研究事業などの拡充・強化に努め、大学開放のための物的基盤を確立することが大きな課題である。